

うまごえ、ふんにようなどでした。田植えや取り入れはたいへんいそがしく、しんるいや近所きんじよの人たちが、おたがい協力することが広く行なわれていて、「ゆい」とよばれていました。今でも「ゆい」を行っているところがあります。きかいの発たつで、人手がかからなくなってきました。

明治の中ごろから人力のほかに、馬や牛の力も、農家には、大きな働き手となりました。

田畑をたがやしたり、

荷物を運んだりする力仕

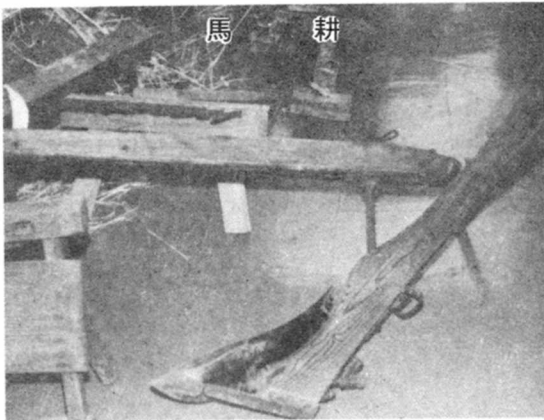
事は、牛や馬に、たより

ました。

荷ぐら



馬耕



馬をつかって田畑をたがやしたもの